親子で災害時の役割について考えると共に、命を守るため

ネイパル北見

極寒サバイバル～防災 AP～

1　事業のねらい

親子で防災体験に取り組み、災害時の家族の役割について考えるとともに、命を守るために安全に行動する力を育む。

2　事業の概要

■期日　R7.1.11(土)～12(日)　1 泊 2 日
■対象　家族
■人数　19 名
■場所　ネイパル北見

3　プログラム

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目 1/11（土）							開会式	部屋準備	活動1冬の防災（保護者） 活動1防災カルタ 防災紙芝居他（子ども）		活動2 真冬の車内極寒体験 映像協力:JAF	活動3 突撃隣の防災袋 休憩	夕食	入浴・自由		就寝準備・就寝
2日目 1/12（日）	起床	準備	朝食	部屋点検	活動4 極寒避難訓練 常呂消防署	閉会式										

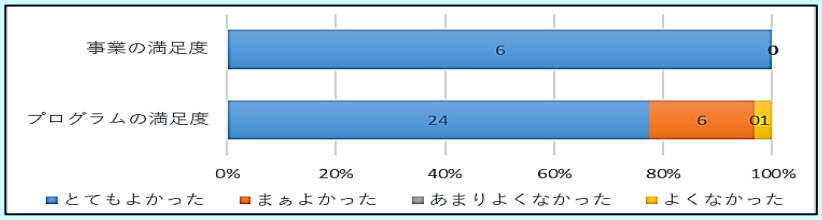
4　ねらいを達成するための活動の工夫

■実際に家族と寒さを体験しながら命を守る方法を考える
・真冬の車内極寒体験では、エンジンを切った車内で家族一緒に過ごすことで、実際の寒さを共有し、冬の車内に何を積載すべきかを実体験をもとに話し合うことができるように工夫した。
■スモークマシーンを使ってよりリアルな避難体験を実施
・不慣れな場所で家族一緒に火災に遭遇したことを想定し、スモークマシーンでの煙体験を行った。視界不良時にドアを開けたときの驚きや焦りをリアルに体験してもらい、災害時の心構えを考え、防災の意識を高める場とした。

防災カルタで楽しく防災を学ぶ

冬の防災対策について講義

5　事業の評価



■参加者アンケートから
・事業内容について 90%以上の参加者が満足と回答した。
・「冬ならではの準備の必要性を感じた。」「実際に体験し、家族で振り返って考えてみることが良かった。」と感想が寄せられた。

6　ねらいを踏まえた成果と課題

●家族とともに冬のリアルな防災体験をすることで、それぞれの役割や災害に備える必要性を改めて感じたという声が聞かれ、家族で防災について考える良い機会となった。
○多くの関係機関と連携を取って進めたが、当日の対応など煩雑になってしまい、参加者対応がおろそかになることがあった。事前の綿密な打合せが重要である。

企画のポイント

もしものときに家族が安全に行動できるよう、災害時の家族の役割や備えについて話し合う場の設定